

ヒートアイランド対策技術分野（地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システム） の進捗状況及び来年度の方針について

1. 平成21年度の事業報告

（1）ワーキンググループ（WG）開催経緯等

- | | |
|-----------|--|
| 21年 4月23日 | 第1回WG開催
(IT 機器等グリーン化技術実証試験要領の検討及び
実証機関の公募・募集に関する検討等) |
| 5月22日 | 第2回WG開催
(実証機関の選定) |
| 22年 3月 8日 | 第3回WG開催
(実証試験結果報告書の検討、実証試験要領の改訂に
向けた検討) |

(WG検討員名簿は別紙参照)

（2）実証試験状況等

実証運営機関：環境省

実証運営機関：特定非営利活動法人 地中熱利用促進協会

(実証技術)

- ・(実証単位 A システム全体)
川崎市南河原こども文化センターにおける地中熱システム全体
- ・(実証単位 B 地中熱/下水熱専用ヒートポンプ)
水冷式ヒートポンプ（地中熱対応水冷式ヒートポンプチラー）
- ・(実証単位 C 地中熱交換機)
東京都港区高輪福祉会館において掘削された地中熱交換器

2. 来年度の方針

〔課題〕

- ・平成23年度からの手数料徴収体制への移行を見据え、実証事業としての実効性を担保しつつ、可能な範囲で実証試験の負担軽減を行い、継続的に一定の実証件数を確保する必要がある。
- ・実証試験実施要領等のロゴマークの使用規定に基づき、システム全体等に付与されたロゴマークの使用法の明確化・具体化を行う必要がある。

〔改善策〕

- ・平成 22 年度実証試験要領においては、システム全体の実証においては、冷房期間の実証を必須とするほか、測定期間、測定箇所、ヒートポンプ単体における測定温度条件等の見直しを行い、実効性を担保しつつ、実証試験の負担を軽減する。
- ・実証試験実施要領等のロゴマークの使用規定に基づき、環境技術開発者及び実証済み技術の利用者が、システム全体等の技術に対してロゴマークを使用する際のガイドラインを実証試験要領に盛り込み、ロゴマークの適切且つ積極的な利用を図る。

<今後の予定>

○第 1 回 WG 開催・実証試験要領の策定・実証機関の公募（5 月頃）

平成21年度環境技術実証事業検討会
ヒートアイランド対策技術分野
(オフィス・住宅等から発生する人工排熱低減技術)
地中熱・下水等を用いたヒートポンプ空調システム
ワーキンググループ 検討員名簿

- 足永 靖信 国土交通省 国土技術政策総合研究所 建築研究部
環境・設備基準研究室 室長
- 大岡 龍三 東京大学 生産技術研究所 准教授
- 大嶋 邦彦 財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター
地下熱利用とヒートポンプシステム研究会
- 笹田 政克 特定非営利活動法人地中熱利用促進協会 理事長
- 藤井 光 九州大学大学院 工学研究院
地球資源システム工学部門 准教授
- 藤谷 泰裕 大阪府 環境農林水産総合研究所 研究調整課 課長
- 森川 泰成 大成建設株式会社 技術センター 建築技術研究所長
(兼環境研究室長)